

未来創造人

ともに工事部調査設計課に所属し、建物の外構設計やBIMモデル作成に携わっている松井さんと佐藤さん。普段は黙々と作業を行っているため、お互いあまり会話をしないそうですが、すでに設計業務の全工程を一人で請け負っている松井さんの活躍は、2年後輩の佐藤さんにとって「仕事の習熟度で差を感じています」と刺激になっています。

二人が日々の業務で心がけているのは、間違いのない図面を作ること。「図面は設計直後だと違和感を抱きにくいですが、少し時間を

生産本部
工事部 調査設計課
まつい たかし
松井 隆志



見やすく理解しやすい図面を作り

施工現場へ“未来”をつなぐ

置くことで問題点が見つかることもあるので、複数回のチェックを欠かしません」と松井さんが語れば、佐藤さんも「単位をミリからメートルに直すだけでも計算間違いなどが起こるケースもあるので、特に気をつけています」と“当たり前”を疑うようにしています。

設計図は建設現場での施工に不可欠なもの。だからこそ二人とも「施工者のことを考えた、見やすく理解しやすい図面を意識して作りたい」というこだわりは人一倍。これからも二人は、設計からその先の未来へとバトンをつないでいきます。

生産本部
工事部 調査設計課
さとう じゅんき
佐藤 隼輝



きっと、未来に続く道

KIT PLUS

特集

2025 進化する鹿島道路



KAJIMA ROAD EVOLUTION 2025

特集 2025 進化する鹿島道路

2025年度の始まりを迎え、鹿島道路は人、技術、ダイバーシティ・働く環境など、さまざまな面で進化を遂げています。時勢の動きに対応した鹿島道路の取り組みやトピックスをご紹介します。



鹿島道路へようこそ！今年度も新しい仲間が加わりました

2025年4月1日、鹿島道路の入社式が本店にて執り行われ、新たに55名の新入社員を迎えました。式では社長からの歓迎の言葉に続き、会社の目指す姿や社会人としての心構えについて伝えられました。

人 × KAJIMA ROAD

日時 1 Apr. 2025

場所 東京本店 会議室

人数 55名



Evolution



入社式

新社長からのメッセージ

本日は、鹿島道路が目指す企業像、皆さんに期待すること、仕事で大切にしてほしい姿勢についてお話しします。

当社は、「道からはじまる未来創造企業」として、舗装や土木・建築、アスファルト製品の製造販売を通じ、社会課題に向き合いながら持続的な成長を目指しています。

それには、次の4点を満たすことが求められます。

- 📍 コンプライアンスを遵守する誠実な企業であること
- 📍 安全に工事を遂行できる企業であること
- 📍 変化する社会のニーズに応えられる工法・技術・施工機械・製品を開発し、技術力で社会に貢献できる企業であること
- 📍 注文者のさまざまなニーズに対して現場力でしっかりと応えられる企業であること

これらを満たす企業として、持続的に成長していきたいと考えています。皆さん、しっかりと覚えていただくようお願いいたします。

4つのキーワード

Keyword 1

コンプライアンスの遵守

Keyword 2

安全に工事を遂行する

Keyword 3

技術力で社会貢献

Keyword 4

顧客のニーズに現場力で応える

Our President

鹿島道路株式会社
代表取締役社長

こどい みつはる
小土井 満治



2 BIM/CIM^{※1}

※1 Building/Construction Information Modeling, Management の略。



BIMのニーズが増加

調査設計課では以前から2次元設計のBIM化を試験的に行っていましたが、国土交通省が2023年から直轄土木業務・工事におけるBIM/CIMの原則適用を決定したことにより、ゼネコンから外構計画のBIMモデル作成依頼が増えました。そうしたニーズに対

応するため、2024年7月からBIMへの取り組みを本格的にスタート。現在は、外構計画をまず2次元で設計し、3次元化の依頼がある場合にBIMモデルも作成。また、過去に制作された2次元設計をBIMモデル化してほしいという依頼にも対応しています。

BIM活用のメリットとは

外構計画のBIMは、VRで現場を施工するようなもの。設計段階で3次元モデルを作成すると、

2次元の設計図にはない高さの情報を持たせることができ、構造物の整合性や他の部材との干渉などのチェックをスムーズに行いやすくなります。それによって設計ミスや施工段階での手戻りを減らすことが可能となり、建設工事の工期短縮やコスト削減・高品質化が期待できます。

現在はゼネコンの依頼に応じてBIMモデルを納品する段階まで達

していますが、今後さらなるステップとして、施工現場など建設のさまざまな工程にBIMモデルの活用を広げていくことが目標です。例えば、鹿島道路の施工現場に、「ARES Commander」というソフトウェアを導入予定で、2次元図面の作製編集だけでなくBIMモデルの検証も可能です。2025年度からこのソフトを30ライセンス程度導入し、調査設計課が作成したBIMモデ

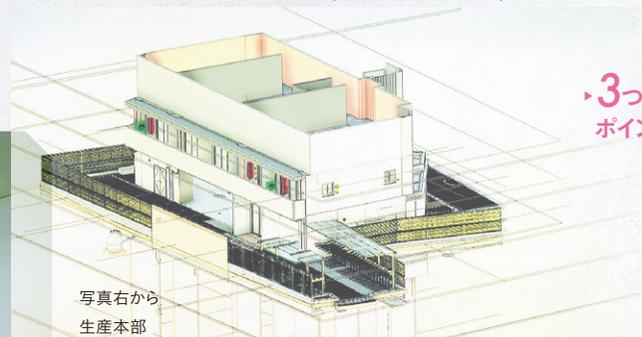
ルを現場でチェックしながら施工できるシステムを構築していきます。一般的にBIM/CIMは建築・土木分野において導入が進んでいますが、それらの中間にあたる外構計画のBIMモデル化に対応している企業はまだ少ない状況です。これからも「外構BIMのパイオニア」として、他社に先んじた取り組みを進めていきます。

技術 × KAJIMA ROAD

Technology BIM/CIM

3Dモデルを扱って建設・土木事業の業務効率化や高度化を図る取り組み。建物や外構などの構造物を設計段階から3Dモデル化し、さらに部材の名称や寸法などの属性情報を組み合わせることによって、設計だけでなく施工や維持・管理などの全工程で使えるデータの共有が容易となります。

BIMソフトで作成した3Dモデル(鹿島道路は外構を担当)



3つのポイント

Point 1

外構計画にもBIM対応のニーズが増加している

Point 2

BIMモデルをさまざまな工程で活用して業務効率化を進めよう

Point 3

外構BIMのパイオニアとして一歩先を見据えた取り組みを進めよう

写真左から

生産本部
工事部 調査設計課
まついたかし
松井 隆志

生産本部
工事部 調査設計課
ゴミンハオ
NGO MINH HAO

生産本部
工事部 調査設計課
さとうじゅん
佐藤 隼輝



写真右から

生産本部
工事部 調査設計課
くらしげなおき
蔵重 直輝

生産本部 工事部 調査設計課
担当課長
ほりひし
堀 整

生産本部 工事部
副部長 兼 調査設計課長
たしろあきお
田代 暁央

外構BIMは鹿島道路が先導していきましょう!



分からない点はいつでも気軽に相談してください!



BIM/CIM 推進メンバー 座談会

外構BIMは全て手探り



蔵重 建築・土木分野と比べて外構のBIMに取り組んでいる企業が少ないため、外構に関するBIMのノウハウがまだ確立されていません。そのため調査設計課のメンバーが建築向けのBIM操作マニュアルを応用するなど手探り状態で取り組んでいます。

ハオ 日本よりも海外の方がBIMの普及が進んでいる印象で、私は故郷ベトナムのサイトでBIMソフトの使い方を調べています。それでもやはり外構のBIMはゼロからのスタートですね。

ここからは、実際の現場の苦労話を交えた、4名の座談会の様子をご紹介します。



松井 建築・土木だとBIMの作成に用いる構造物の3Dパーツがネット上にそろっているのに、外構はまだ少ないんですよ。そのため、外構用のパーツを一から自分で作る必要があり、時間がかかって大変！



佐藤 全て一から作るのは大変なので、寸法を変更すればパーツの形状も変更できるような工夫をしています。



蔵重 しかもBIMソフトは複数の種類があり、お客さまによって異なるソフトを使っている状態。調査設計課では業務適用範囲が広い「Revit」を使っていますが、他のソフトの操作も学ぶ必要があるんですよ！

Member Profile



生産本部
工事部 調査設計課
くらしげ なおき
蔵重 直輝

施工に必要な機能をpushさえつつ、お客さまのニーズに応えられるBIMモデルを作っています。



生産本部
工事部 調査設計課
まつい たかし
松井 隆志

最初は手探り状態でしたが、今では1〜2カ月もあればBIMモデルを完成できるようになりました。



生産本部
工事部 調査設計課
ゴ ミン ハオ
NGO MINH HAO

BIMの操作時間をなるべく多く確保することでスキルアップに努め、課に貢献できるよう目指しています。



生産本部
工事部 調査設計課
さとう じゅんき
佐藤 隼輝

BIMの基本操作の外部研修を受けたのですが、建築向けの内容だったので、現在の知識はほとんど独学です。



支店や現場にも普及したい



蔵重 3Dで表現したBIMモデルは誰が見ても分かりやすく、属性情報を絡めることで必要なデータも得やすくなっているので、これから社内のBIM普及を進めていきたいと思っています。



松井 現在、BIMソフトを操作できるのは一部の社員だけで、外構BIMの業務を請け負っているのもまだ本店だけなんだよね。今後は各支店でもBIM業務に対応できるように、支店の担当者を対象とした研修を開催していきたいと考えています。



佐藤 そのためには調査設計課がBIMへの知識をもっと高め、誰でも操作できるようにマニュアルを整備していく必要がありますね。



蔵重 私は佐藤さんやハオさんほどBIMに取り組む時間を確保できていないため、習熟度で後れを取っています。調査設計課全

体で情報を共有しながら技術を底上げし、高いレベルで均一化することが今後の課題です。



蔵重 今は現場の施行経験の少ないメンバーを中心にBIMモデルの作成を行っていますが、最終的には現場担当者がBIMモデルを取り扱えるようにして、現場で使えるBIMモデルへと高めていくことが目標です。そのためには、支店のBIM担当者が今後行われる研修で学んだ内容を、現場担当者へ本店とともに共有してもらうことが近道なので、支店の皆さんにもどんどん協力していただきたいです！



松井 私は現場での施工経験がないので、レベル計画や構造物の配置計画に不安を覚えることがあります。現場の方たちと確認しながら施工しやすいBIMモデルと一緒に作っていきたく思っているので、その際は皆さんの現場経験に基づいたアドバイスを頂けると嬉しいです。



早く現場で役立つツールにしたい！

➔ BIM対応の強化は大きなアドバンテージとなる

今後は外構計画のBIM化が当たり前となり、対応できる企業に設計依頼が集中することが予想されます。そんな中、いち早くBIM対応を強化していくことは大きなアドバンテージになります。働き方改革によって勤務時間に限りがある中、社内他部署とも連携を図りながら若手を中心にスタッフ教育を進め、現場の施工を考慮したBIMの実現を目指します。



生産本部 工事部
副部長兼
調査設計課長
たしろ あきお
田代 暁央

3 働き方



▶ 働き方 × KAJIMA ROAD

“働き方改革” 鹿島道路でも着々と進行中!

少子高齢化・共働き世帯の増加、そしてライフスタイルの多様化。これからの働き方に求められるのは「柔軟性」と「選択肢」です。鹿島道路では以前より時短勤務制度を導入しており、2025年3月1日からはさらにテレワーク制度も本格スタート。働き方の選択肢がぐっと広がりました。

Short Working Hour System

時短勤務

子育て期間中の従業員に向けた時短勤務制度を導入しています

勤務時間を短縮することで、育児休業後の復職や、育児をしながら働き続けることができる職場環境を整えました。

▶ 3つのポイント

- Point. 1**
1日あたり最大2時間の勤務時間短縮が可能※1
- Point. 2**
実際に育児中の社員の声によると子どもとの時間を大切にできている
- Point. 3**
育児休業後の育児と仕事の両立が可能

※1 短縮後の所定労働時間は6時間以上

✓ Voice

復職のハードルを下げ、仕事へのモチベーション維持にもつながっています!



ながさき ゆり
生産本部・建築部 長崎 友梨

私は育児休業から復職する際に、時短勤務を始めました。子どもを保育園に預けるためには、登園・降園の時間に合わせて出退勤を調整する必要がありますが、また時短勤務により子どもと過ごす時間も確保できます。

この制度では、小学校6年生までの子どもを養育している期間に、始業時間を遅らせたり、終業時間を早めたりすることができます。所定時間内の勤務が求められる業務を除けば、現場作業員や現場事務以外の職種でも十分に活用できるのではないのでしょうか。私自身、この制度によって仕事と育児の両立がしやすくなり、安心して働ける環境が整ったと実感しています。

□ 1日のスケジュール例

- 9:00 ○ 出社
社内ミーティング
毎週月曜日は部内打ち合わせをしています
- 10:00 ○ 社内業務
日によって他部署との打ち合わせ・会議等
- 12:00 ○ 昼食
- 13:00 ○ 社内業務
日によって他部署との打ち合わせ・会議等
- 16:30 ○ 退社

Telework

テレワーク

誰もが安心して働ける環境を目指して

今回のテレワーク制度導入は、家庭と仕事の両立を支援し、災害や感染症などの非常時にも社員とその家族の安全を確保しつつ、事業を継続できる環境を整えることを目的としています。通勤時間の削減や就労場所の柔軟な選択により、心身の負担が軽減され、実際に利用した社員からは、「安心して働ける」という声も寄せられています。

また、有給休暇を消化せずに勤務できる点も、働きやすさの向上につながっています。

一方で、職種によっては利用が難しい現状もありますが、DX や ICT の活用により、社員の皆さんが利用できる制度へと発展させていきたいと考えています。



育児・介護
両立支援ハンドブック

▶ 3つのポイント

- Point. 1**
新制度では始業・終業時間を自分で調整可能
- Point. 2**
・通勤時間の削減
・突発的な事情への対応
・集中できる時間の確保
- Point. 3**
内勤・本社スタッフ等では活用が広がっている

✓ Voice

制度を“使える”文化を育てていこう

制度はあるだけでは意味がありません。今回の制度の導入がゴールではなく、有効的な運用とさらなるサポート体制の拡充に取り組んでいきます。今後、皆さんの生活環境が変化した際に、柔軟かつ安心して働けるための制度となるよう、ぜひご活用ください。

ライフステージに寄り添った、安心して働き続けられる企業であるために



管理本部 人事部 担当課長 小沼 佑太
係長 うえむら かよ 植村 佳代

子どもの登園・降園時間に合わせられ、仕事と育児の両立がしやすくなった

介護や育児などによる環境の変化に不安を感じていたが、安心して働ける環境が整った

4 その他

Kawaguchi Ascon 川口アスコン竣工

環境対応と安定供給を両立した 最新設備へ

旧工場は設置から36年が経過し、設備の老朽化による修繕費の増加や、間接加熱方式による再生骨材使用の少なさが課題となっていました。

新たな川口アスコンは、都市ガスを使用することで重油使用時に比べCO₂排出を削減。環境配慮と品質確保を両立した特徴を備えています。移動式破碎機の導入による作業省力化も図られており、効率性の面でも大きな進化を遂げています。

今後は、安定した品質の合材製造と廃材処理を通じて地域貢献を果たすとともに、顧客ニーズに柔軟に対応できる工場運営を目指していきます。



Website 鹿島道路ウェブサイト

4月1日、鹿島道路のコーポレートサイトを リニューアル

今回のテーマは「持続的な成長力の発信」で、未来感のあるデザインと映像を取り入れていきます。トップページの操作性や閲覧性を向上させ、技術情報も「工法技術」と「製品」に分けて検索しやすくしました。

今後は新ページや採用サイトのリニューアルも予定しており、より使いやすいサイトを目指していきます。



Message 部署長からのメッセージ



風通しのよい職場を目指して

管理本部長 ^{むらかみ やすお} 村上 泰雄

4月に管理本部長となりました村上です。私たちの世代は「ドリフターズ」好きで、志村けんさんのウイットとアドリブ力、そして人を楽しませる真剣さを尊敬していました。笑いは人を豊かにするとの信念で、社員の笑顔が見られるような経営や組織運営を行ってまいります。管理本部長として会社を守るとともに、社員を守ることをモットーに、活気ある風通しのよい会社を目指していきます。いつでも相談に来てください！元演劇部。



発想の転換で強い鹿島道路へ

生産本部長 ^{やまべ なおゆき} 山邊 直之

4月より取締役 常務執行役員 生産本部長を拝命いたしました。私のモットーは「発想の転換・ポジティブシンキング」です。何事も前向きに、できないことばかり考えず、できる方法を見いだすことです。これから諸先輩方が積み上げてきた実績を継承しつつ、生まれ変わった強い鹿島道路になるよう努力してまいります。今後とも社員の皆様、役員の皆様のお力添えをどうぞよろしくお願いいたします。



信念と戦略で築く新しい鹿島道路

営業本部長 ^{たむら よしひで} 田村 嘉英

入社40年のうち関西支店で39年、本店で1年と、ほとんど関西勤務でした。73期は厳しい環境ですが、営業本部長として何ができるか、戦略が必要です。支店長時代のスローガンは吉田松陰の言葉「先を見よ!」、営業所長時代は「是々非々!」（良いことは良い、悪いことは悪いと伝える）を掲げ、またコンプライアンスを最優先にしました。未来の仲間たちのために、新しい鹿島道路と一緒につくっていききたいと思います。



技術開発で新たな未来を

技術開発本部長 ^{たなか こうさく} 田中 耕作

技術開発本部の役割は、新たな技術の開発により社会、経営に貢献していくことです。そして、当社が持続的に発展し続けるためには、技術力の向上により将来を担う若手社員が魅力を感じ、働きがいのある企業に成長し続けることが必要で、その重責を担うのが技術開発本部だと考えています。昨年開所した技術開発総合センターのシナジー効果をさらに高め、新たな未来に向け、技術開発に邁進してまいります。



多様性が拓く豊かな未来

経営企画部長 ^{たけだ としひこ} 竹田 寿彦

4年ぶりに古巣の経営企画部長を拝命しました。最近、DE&I[※]という言葉をよく耳にします。このような取り組みを皆が理解し実践することで当社の企業理念「新しい価値創造に挑戦し、人と地球の豊かで快適な環境づくりに貢献する」の実現にも寄与するものと期待しています。

[※] DE&I（ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン）多様な人材を受け入れ、公平に対応し、誰もが生き生きと活躍できる環境をつくるための考え方

